



プレシード・シード期の概念実証／実現可能性調査 における支援方策に関する調査

公募説明会

2026年7月21日

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

スタートアップ支援部

Agenda

1. 調査内容について
2. 提案書提出について
3. スケジュールについて
4. 質疑応答

Agenda

1. 調査内容について
2. 提案書提出について
3. スケジュールについて
4. 質疑応答

調査の目的および概要

<目的>

プレシード・シード期のディープテック・スタートアップは事業化検討の初期段階において、研究開発および事業化計画の双方に不確実性を有している。そのため、概念実証および実現可能性調査においては、検証項目、検証順序について精緻化する必要がある。

本調査は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO」という。）の実施するディープテック・スタートアップに対する支援事業において、研究開発の支援に加え、事業化に向けた実現可能性の妥当性を確保するために必要な「**検証項目（方法・手順・手段を含む）・検証順序の設計**」に関する機能を整理し、既存の伴走支援に組み込むための方策を明らかにすることを目的とする。

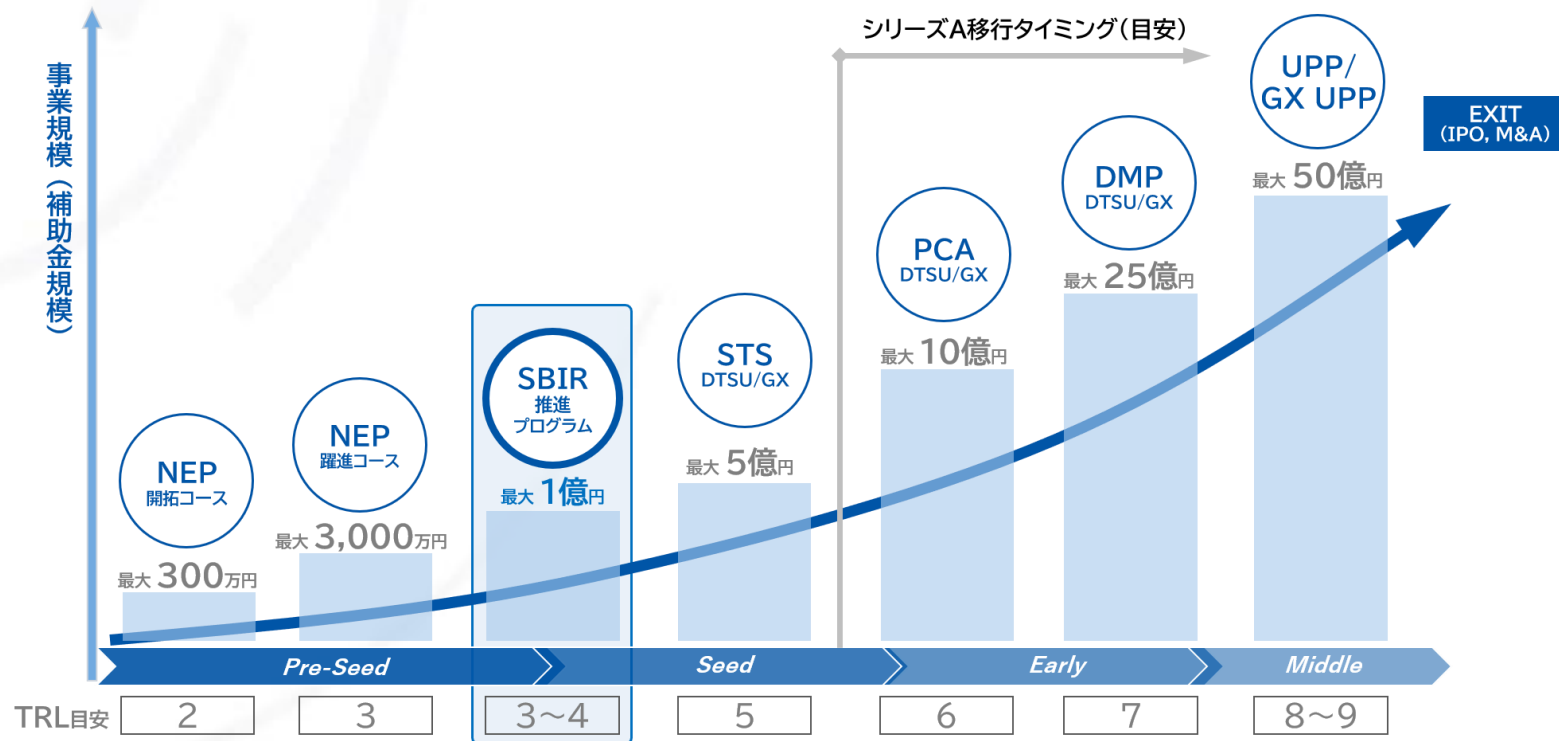
【調査期間】 NEDOが指定する日から2027年3月31日まで

【予算】 2,000万円

【調査項目】

- (1)文献調査および現状把握
- (2)検証項目および検証順序に関する整理
- (3)検証項目に対する伴走支援策の整理および成果の取りまとめ

目的意識の起点について



<前提>

SBIR推進プログラムは、法人化されたイノベーションの種に、必要な水(資金)と肥料(伴走支援)を提供する最初の重要フェーズ

<仮説>

ミドル・レイター以降での資金調達難・経営破綻や、後戻り(事業計画の抜本的見直し)回避には、

当該スキームにおけるMVP・PSFに向けた研究開発計画の精緻化(計画策定を高度化する支援)が必要なのではないか

目的意識の起点について

支援段階	対象とする内容	補助規模・期間
Ph.1	研究開発の内容について、科学技術的な実現可能性や技術的又は商業的な潜在性を判断するために実施する概念実証(PoC)や実現可能性調査(FS)	1,500万円～2,000万円 1年間(連結型は年度末まで)
Ph.2	Ph.1で得られた成果等を前提として取り組む研究開発	5,000万円～1億円 2年以内
Ph.3	原則としてTRL5以上の実使用又は相当環境下で実施することが必要となる大規模技術実証	NEDOでは実施無し
事業化・政府調達	Ph.2又はPh.3によって開発された技術、製品等の事業化に向けた準備	—

引用: 指定補助金等の交付等に関する指針について
引用: NEDO HP([SBIR推進プログラム | 事業 | NEDO](#))

<前提>

SBIR制度において、フェーズ1で実施するPoC/FSは、上記記述となっている

(指定補助金等の交付等に関する指針 及び 指定補助金等の運用に係る業務ガイドライン)

<論点>

- ① SBIR フェーズ1におけるPoC/FSについて、いかなる検証項目(方法・手順・手段を含む)・検証順序の設計であるべきなのか
- ② また、あるべきPoC/FSを認識して事業推進をしていくためには、どのような要素(人・ナレッジ等)が必要となるのか

仕様書に基づく調査項目の詳細

(1) 文献調査および現状把握

既存の関連制度及び制度設計プロセス、実績に係る既存資料を整理し、資金配分機関の役務の範囲を確認する。その上で、ディープテック・スタートアップの概念実証および実現可能性調査について、以下の観点から制度上の想定と実際の運用状況の整理を行う。

- ・ 事業計画の検証方法
 - ・ 検証の項目および検証順序の設定方法
 - ・ 研究開発目標と事業計画の評価方法
 - ・ 事業実施中のモニタリング方法
 - ・ 事業実施中の伴走支援方策
 - ・ 過去NEDO事業に参画したスタートアップの背景・動機
-
- ・ SBIR制度の指針およびガイドライン上に定義されている執行機関（NEDO等）の役務と、実際に運用との間で言語化されていないギャップを確認し、運用上高度化することが求められる部分の論拠を明確化する
 - ・ また現状、採択事業者（NEDOが主として選定）がどのようなPoC/FS項目を構築・実施しているかも確認を行う

仕様書に基づく調査項目の詳細

(2) 検証項目および検証順序に関する整理

概念実証および実現可能性調査における検証項目および検証順序について、外部有識者の知見も活用※しつつ、以下の観点から整理する。

- ・ 検証項目（方法・手順・手段を含む）の設定方法および根拠
- ・ 検証順序の設計および優先順位付けの設定方法および根拠
- ・ 技術成立性、市場性、制度適合性等の観点に基づく検証および反映方法
- ・ 将来に影響を及ぼし得るリスクの検証および反映方法
- ・ 検証結果を反映した計画変更の方策

特に、プレシード・シード期から次のフェーズに進展する際に影響を及ぼし得る要素について、どの段階でどのように認識され、その検証が行われるべきかについて整理する。

※外部知見の活用について：ヒアリング対象として、以下を想定。

- ・ 過去NEDO事業に参画したスタートアップ（SBIR推進プログラム等）
 - ・ 分野別の有識者（事業開発、開発設計、製造生産、制度対応等）
-
- ・ デスクトップ調査ではなくヒアリングによるエビデンス構築を優先する
 - ・ ヒアリング候補となる有識者については、太字部分の要素をマストとした上で、ヒアリング順序等は提案書の中で記載
 - ・ 採択事業者（NEDOが主として選定）がどのようなPoC/FS項目を構築・実施しているかも確認を行う

仕様書に基づく調査項目の詳細

(3) 検証項目に対する伴走支援策の整理および成果の取りまとめ

上記(1)、(2)の結果を踏まえ、概念実証および実現可能性調査における検証項目で明らかになった課題に対する支援の在り方を整理し、その結果を取りまとめる。

その際、**既存の伴走支援施策**に補完的・追加的に組み込むことを想定とした支援策を整理する。

- ・ 「実施計画書(交付申請時に作成)における研究開発項目等」の検証事項の精緻化につながるエビデンス(人・ナレッジ等)を構築し、運用の高度化策を整理する
- ・ 参考資料ダウンロードリンクから、実施計画書・事業化計画書フォーマットをご確認いただけます

[参考資料ダウンロードリンク](#)

Agenda

1. 調査内容について
2. 提案書提出について
3. スケジュールについて
4. 質疑応答

公募要領に従って提案書を作成し、その他提出書類とともに以下の提出期限までに、

電子申請システム「Jグランツ」上で応募申請してください。

※持参、郵送、FAX又はE-mailによる提出は原則受け付けておりません

【提出期限】

2026年8月4日(火)正午

応募状況等により、公募期間を延長する場合があります。
公募期間を延長する場合は、NEDOウェブサイトの公募ページ上でお知らせします。

【提案書】

HP掲載の提案書フォーマットの事項を網羅できているのであれば、PPT形式での提出も＜可＞とします。

【提出先】

Jグランツ:リンクよりご確認ください

<https://www.jgrants-portal.go.jp/subsidy/a0WJ200000CDd5IMAT?wfid=a0XJ20000079uvoMAA>

【提出方法】

「Jグランツ」上で、必要項目を入力し提出書類をアップロードした上で申請してください。

万が一、応募者の責に依らない理由により、提出期限までにJグランツ上の申請が困難な場合には、提出期限前までに必ず NEDO 担当者までご連絡ください。

Agenda

1. 調査内容について
2. 提案書提出について
3. スケジュールについて
4. 質疑応答

【スケジュール】

2026年8月4日	: 公募締切
2026年8月中旬(予定)	: 採択先決定・ウェブサイト公表
2026年9月下旬(予定)	: 契約締結

【問い合わせ】

本説明会以降のお問い合わせは、以下 E-mailで受け付けます。

※審査の経過等に関するお問い合わせには応じられません。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

スタートアップ支援部 SBIRチーム

sbir_shien@nedo.go.jp

Agenda

1. 調査内容について
2. 提案書提出について
3. スケジュールについて
4. 質疑応答

公募説明会中の質疑応答一覧

No.	質問	回答
1	仕様書(1)及び(2)における採択事業者へのヒアリングは何社程度を想定しているか。	5～10社程度を想定している。
2	有識者にはVC、大企業新規事業担当、アクセラレーター等も含めてよいか。	問題ない。 一方で、仕様書および説明会資料で示した観点並びに先に示した論点について、提案者がどのように情報収集及び分析を行う予定であるかを提案書において具体的に示していただきたい。 特に、当該観点・論点の整理に資すると考えられるヒアリング対象者については、可能な限り具体的に記載することが望ましい。なお、候補者が特定されている場合には、バイネームで記載して差し支えない。
3	PowerPointをPDF化した形式で提出してもよいか。	問題ない。

公募説明会中の質疑応答一覧

No.	質問	回答
4	本調査において、これまでの国内外の調査結果や先行事例はどの程度踏まえるべきか。 また、新たに調査・分析することが期待される範囲についてはどうか。	旧SBIR制度から新SBIR制度に至るまでの、制度改善に係る調査レポート等も踏まえつつ、最新の文献も確認することが望ましい。 NEDOのSBIR推進プログラムの現状や運営実態については、必要に応じて関連資料を提供する予定である。 海外事例については、対象国や制度を限定するものではなく、調査目的に照らして適切な事例を提案いただきたい。 なお、米国SBIR制度及び英国SBIR制度については、可能な限り最新の調査・レポート等を参照することが望ましい。
5	成果物としてどのような内容を想定しているか。 提言のみならず、具体的なツールや仕組み等の提案も対象となるのか。	本調査では、PoC(概念実証)及びFS(実現可能性調査)のあるべき姿を整理するとともに、その実現に必要なナレッジ、人材・人材像、支援機能等を明らかにすることを期待している。 成果物としては、今後の運営にも活用可能なフレームワークを最低限整理するとともに、仕様書で示した仮説の検証に必要なナレッジ、人材・人材像、その他必要要素等を具体的に特定していただきたい。 また、NEDOが現時点で十分に把握できていない課題や成功要因等についても調査を通じて明らかにし、今後のSBIR推進プログラムの高度化に資する成果につながる提案を期待している。

Appendix

スタートアップ・中小企業の研究開発から事業化までを多段階で支援する制度

一 制度の目的

スタートアップ・中小企業等による**革新的な研究開発**と
その成果の**社会実装(事業化・政府調達)**まで一貫して支援することで
スタートアップエコシステムの強化と社会課題解決及び政府ニーズの解決を達成する。

あるべき姿 | イノベーション創出

研究開発促進

事業化支援

政府調達支援

一 沿革

1999 | 旧SBIR制度 開始

2020頃 | 旧SBIR制度の制度・運用見直し

2021 | 新SBIR制度 開始

2022 | スタートアップ育成5ヵ年計画

2023 | ディープテック・スタートアップ支援基金造成

一 対象範囲・フェーズ構造

フェーズ1

概念実証・実現可能性調査

PoC/FS

研究開発の概念実証・実現可能性調査

補助額 | 最大2,000万円

補助率 | 1/1

期間 | 原則1年以内(連結型は年度末まで)

フェーズ2

実用化開発

R&D

フェーズ1の成果を前提とした実用化に向けた研究開発

補助額 | 最大1億円

補助率 | 2/3

期間 | 原則2年以内

フェーズ3 (NEDOでの実施なし)

大規模技術実証

Large-Scale Technology Demonstration

事業化・政府調達による社会実装

接続 | 政府調達への接続

市場 | 民間市場展開

参考:内閣府『新SBIR制度における指定補助金等の交付等の方針に係るガイドライン』

詳しくはこちらをご覧ください→

[SBIR推進プログラム | 事業 | NEDO](#)

[NEDO SBIR推進プログラムポータルサイト](#)